

昭和五十四年度 陵墓関係調査概要

陵墓調査室

工事区域の調査

調査の全容

昭和五十四年度は、古代の高塚式陵墓と、埋蔵文化財包蔵地内にある

陵墓の、營繕土木工事実施のため、工事施工区域について、当調査室では、陵墓監区の協力のもとに、次のように遺構・遺物の有無確認調査を実施して、工事による遺構破壊の防止に万全を期した。また、暫く中断していた、陵墓の石塔についての現状調査を、次のように実施した。

(事前調査)

一、埴口丘陵（奈良県北葛城郡新庄町大字北花内）外堤護岸工事区域の

調査

担当 土生田純之・北田和夫・小走公典・森本正哲〔五月実施〕

二、河内坂門原陵（大阪府羽曳野市西浦）陵前整備工事区域の調査

担当 井上喜久男・富賀武・真銅慶一〔五月実施〕

三、磯長山田陵（大阪府南河内郡太子町大字山田）陵前境界線石垣設置

担当 土生田純之・茶谷尚三・大藪健司〔十二月実施〕

担当 井上喜久男・浅野良文・木林成嘉〔五月実施〕
四、狭木之寺間陵（奈良市山陵町）外堤東側人止柵改修工事箇所の調査
担当 土生田純之・畠山伊透〔五月実施〕

五、河内坂門原陵外堤護岸工事区域及び陵前排水柵設置箇所の調査
担当 笠野毅・真銅慶一・富賀武・大平斎〔十月実施〕

六、仲津山陵（大阪府藤井寺市沢田四丁目）人止柵設置工事箇所の調査
担当 笠野毅・真銅慶一・富賀武・大平斎〔十月実施〕

七、鳥戸野陵（京都市東山区今熊野泉山町）外構柵設置工事区域の調査
担当 土生田純之・佐藤利秀・鎌田恒雄・辻井忠則・茶谷尚三・大藪健司〔十二月実施〕

八、菩提樹院陵（京都市左京区吉田神楽岡町）外構柵設置工事区域の調査
担当 土生田純之・茶谷尚三・大藪健司〔十二月実施〕

査

担当 笠野毅・森本安雄・畠隆夫〔一月実施〕

〔〇、沓塚陵墓参考地（京都市伏見区深草田谷町）整備工事区域の調査

担当 笠野毅・森本安雄・長浜敏男〔一月実施〕

〔立会調査〕

〔一、佐保山南陵（奈良市法蓮町）鳥居改修工事箇所の調査

担当 山中弘夫・松岡和夫〔七月実施〕

〔三、丹比高鷲原陵（大阪府羽曳野市島泉八丁目）参道補修工事箇所及び

外構柵設置工事箇所の調査

担当 辻本貞雄〔七月実施〕

〔四、山辺道勾岡上陵（奈良県天理市柳本町）三号堀墳丘裾石張工事箇所

の調査

担当 中井義一・小走公典〔十一～二月実施〕

〔四、檜隈坂合陵（奈良県高市郡明日香村大字平田）外堤護岸及び漏水止

工事箇所の調査

担当 中野雅之・北田和夫〔十一～一月実施〕

〔五、河内坂門原陵陵前整備及び外堤護岸工事箇所の調査

担当 富賀武〔十一～三月実施〕

〔六、百舌鳥耳原中陵（大阪府堺市大仙町）第三堀堆積汚泥浚渫工事箇所

の調査

担当 中野順治〔十一～一月実施〕

七、泉涌寺雲竜院内陵墓地（京都市東山区今熊野泉山町）土壌改修工事

箇所の調査

担当 土生田純之・大藪健司・茶谷尚三〔十二～一月実施〕

〔八、田原西陵（奈良市矢田原町）山内出入口改修工事箇所の調査

担当 山中弘夫〔一月実施〕

〔九、妻鳥陵墓参考地（愛媛県川之江市妻鳥町字春宮山）外構柵改修工事

箇所の調査

担当 石田茂輔〔一月実施〕

〔一〇、鳥戸野陵外構柵設置工事箇所の調査

担当 鎌田恒雄〔一月実施〕

〔一一、佐保山南陵陵内排水工事箇所の調査

担当 松岡和男〔二月実施〕

〔一二、傍丘磐坏丘南陵陪冢号（奈良県北葛城郡香芝町大字北今市）崩壊

復旧工事箇所の調査

担当 北田健郎〔二月実施〕

〔一三、大光明寺陵駐車場取設工事箇所の調査

担当 東野繁・高田慶昭〔二月実施〕

〔一四、埴生坂本陵（大阪府藤井寺市青山三丁目）前方部堀流入土砂浚渫工

事箇所の調査

担当 大平斉〔三月実施〕

〔一五、仲津山陵人止柵改修工事箇所の調査

担当 中野順治〔三月実施〕

担当 大平斎〔三月実施〕

二、沓塚陵墓参考地通行路改修工事箇所の調査

担当 八木敬三・内海 博〔三月実施〕

(石塔調査)

一、宝鏡寺宮墓地（京都市北区等持院北町真如寺内）理昌女王墓以下五

墓の石塔現状調査

担当 笠野毅・辻井忠則・藤井良章〔一月実施〕

二、曇華院宮墓地（京都市北区紫野大徳寺町大徳寺養徳院内）聖興女王

墓以下九墓の石塔現状調査

担当 笠野毅・辻井忠則・藤井良章〔一月実施〕

以上の調査のうち、事前調査と石塔調査とは、当調査室員と所管陵墓

監区の調査担当職員とで調査を行なった。立会調査は、当調査室の指示

のもとに、所管陵墓監区の調査担当職員が調査を実施し、状況に応じて
当調査室員も調査を行なった。工事の設計と実施については、当庁京都
事務所工務課が、調査結果に基づいて、遺構と遺物の保存を配慮しこれ
に当つた。

一の調査では、特段の遺構検出はなく、出土品は、前年度の「埴口丘
陵外堤桶管改修箇所の調査」の際と同様な埴輪片が大半を占めた。

二の調査では、河内坂門原陵の遺構は検出されなかつた。

三の調査では、磯長山田陵の陵前部分は、水田を埋めて築き立ててい

ることが認められた。

四の調査は小部分の発掘にもかかわらず、葺石様の礫や埴輪盾の破片
などを検出した。

五の調査では、原初の外堤遺構は検出されず、現外堤は後世の築堤で
あることが明らかとなつたので、工事による河内坂門原陵遺構の破壊の
心配はなくなつた。本調査には、考古学上の指導を、末永雅雄櫻原考古
学研究所長・坪井清足奈良国立文化財研究所長に、地質鑑定を梅田甲子
郎奈良教育大学教授に、工法の技術指導を吉岡良朗建設省土木研究所砂
防部長に、それべく依頼して現地検分を願い、それべくの観点による助
言を得て、雑割石による石垣護岸の施工を決定した。

六の調査では、仲津山陵の本来の外堤と考えられる處でありながら、
このことを証する遺構・遺物の検出ができなかつた。

七の調査は、葬地「鳥戸野遺跡」に包含されるため実施したが、少数
の出土物と、域内の墳丘の封土の一部が検出された。

八の調査では、近年の廃棄物以外には何も検出されなかつた。

九の調査は、遺跡「伏見城跡」の遺構・遺物確認のため実施したが、
土坑二箇所と少數の遺物を検出しただけである。

一〇の調査は、遺跡「深草廃寺跡」に隣接するので実施したが、何も検
出できなかつた。

立会調査は、一の調査では、石組を二箇所で検出したので、これに養
生を施し施工した。二の調査では、石組や石塔残欠、陶磁器・須恵器の

破片等を検出し、石組は養生をして埋戻して施工した。

元の調査では、妻鳥陵墓参考地の墳丘は、凝灰岩の岩盤上に築かれていることが明かになった。

この他の立会調査では、遺構や遺物等は検出されなかつた。

石塔調査は、宝鏡寺宮墓地では、石塔実測図の作成と、銘文の採拓を行ない、曇華院宮墓地では、既存の石塔実測図の照合点検と、銘文の採拓を実施した。

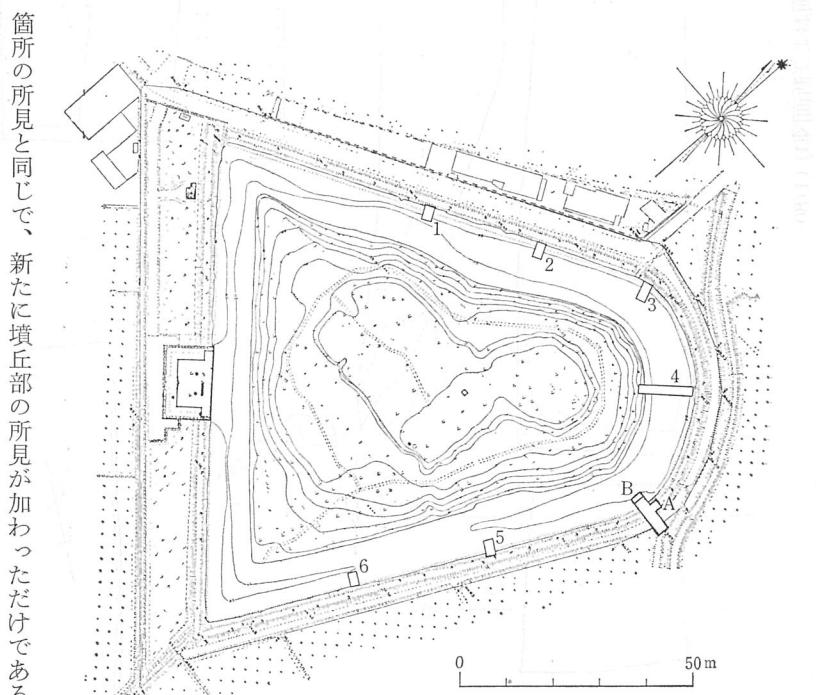
以下八を除く一～〇の事前調査と、一四・一七の立会調査との概要を記す。

（石田茂輔）

埴口丘陵外堤護岸工事区域の調査

飯豊青尊の埴口丘陵の外堤内法裾全周に護岸工事を実施するため、事前調査を行なつた。本年度の調査は、二箇年計画の第一年度分で昭和五十四年五月七日から同二十日までの十四日間にわたり、後円部側に六本のトレンチを設定して行なつた（第1図）。この間、坪井清足・梅田甲子郎の両氏から、現地で考古学・地質学上の指導を受けた。各トレンチは外堤内法裾から濠側へ、幅二メートル、長さ三・五メートルを基準に掘削した。なお、墳丘の中軸線上の第4トレンチは、外堤内法裾から墳丘裾まで濠を横断して設定し、周濠内の状況把握に努めた。

基本的層序は、次に述べるように前年度に報告の当陵外堤の樋管改修



第1図 墠口丘陵トレンチ位置図（A 樋管改修時の事前調査トレンチ、B 第4回断面図の位置）(1/1,600)

箇所の所見と同じで、新たに墳丘部の所見が加わつただけである。

I層 表土。

II層 築堤以後の堆積土。外堤の外裾にある。今回は調査区域の対象外であり、検出していない。

III層 築堤以後の周濠内堆積土。